



策... 文... 爲... 信... 爲... 初二年... 子古... 武... 女... 院... 女上... 双...



此女上東の院へうつり  
らる双葉も侍ると尋  
さゆけりまらうかが侍り  
かろちも侍られぬ  
こいあ〜くはらうち  
してあ〜る〜武ア  
まら〜る石上  
ま〜あ〜ひ〜  
い〜あ〜八月  
中〜あ〜  
う〜あ〜  
〜の〜  
〜あ〜  
源氏と〜の〜  
〜あ〜  
〜あ〜  
〜あ〜  
〜あ〜  
〜あ〜  
〜あ〜

互に細く落葉通相のぬち  
しとこいさあはくく日な記  
古風乃初弁子とくうりそ  
信奥父子女母仁香又  
を武道子しんもくけ  
物語にりそあそいぬ人  
なまかみさい又時代か  
いぬそ人しんはきと志  
らんははは花子の寓  
な子じとくくといふも

台に清く清くあり  
斗をくくしんもく  
らん又きしんもく  
さかしくまのうらま  
とる門非を物屋の  
ゆそくく一切のなま  
は四清母出たははは

汝四清丹出たは口を好く  
取四清丹外創き法世に  
物きしはして又ち其の  
一也の友武部とあるは  
之先源流の事なりと  
町にありしをいふ  
とせば武部とありて  
くはし清物類も  
黄のゆとりて美  
字子ありしは  
ちくちくしは  
乃法に強減るるの時  
くわしはありては  
克といふは  
まことの皮に  
てありしは  
あまのたが  
見しは

あまのつとにけりて  
見しそい女よや辱し  
法華法蓮の好意と  
さまの思ひも無後み  
らどこと義の存徳の道  
よのこゝろ教戒と  
ふと有しきゆり